



2012年度 学習支援・教育開発センター活動報告

※2012年7月より、「教育開発センター」から「学習支援・教育開発センター」に改称しました。

部会活動

・FD支援部会

第1回：5月18日開催

(審議事項) 2012年度事業計画について
2012年度春学期「学生による授業評価アンケート調査」実施要領について

(懇談事項) GPA評価について
2011年度秋学期の成績評価について
ナンバリングについて

第2回：6月20日開催

(審議事項) 2013年度新任教員研修会の実施について
(懇談事項) 2012年度秋学期「学生による授業評価アンケート」の実施について
GPA表記について

第3回：7月26日開催

(審議事項) 2012年度秋学期「学生による授業評価アンケート」の実施について
(懇談事項) 教育方法・教材開発費制度の見直しについて

第4回：10月24日開催

(審議事項) 2013年度教育方法・教材開発募集について

第5回：11月19日開催

教育方法・教材開発成果報告会

「社会福祉実習教育に用いる討議用ケースブック（ケース討議用教材）作成」

(社会学部 野村 裕美 准教授)

「学外公開にふさわしい線形代数学の質の高いe-Learning教材の開発」

(理工学部 溝畑 潔 准教授)

「英語および初修外国語学習への多読・多聴指導法の導入」

(言語文化教育研究センター 西納 春雄 教授)

(審議事項)「学習支援・教育開発センター年報 第4号」原稿募集について

2012年度秋学期「学生による授業評価アンケート」の実施について

第6回：12月19日開催

(審議事項) 2013年度「大学入学準備講座」実施要領について

2013年度教育方法・教材開発費申請のヒアリングについて

第7回：1月31日開催

(審議事項) 2013年度教育方法・教材開発費申請について

第8回：3月11日開催

(報告事項) 科目担当者による授業講評について

教育開発調査活動費の支給について

2012年度大学入学準備講座講義録について

2013年度教育方法・教材開発費採択の決定について

2011年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」

調査結果報告書の作成について

<活動報告>

2012年度のFD支援部会では、①学士課程教育の実質化に向けた検討（情報提供、意見交換）、②教育方法・教材開発費制度の見直し、③英語版FDハンドブックの作成、④「大学入学準備講座」の企画、⑤FDに関する意識高揚活動の実施、⑥FD講演会・ワークショップの開催、⑦学生による授業評価アンケート調査実施方法の見直しの7点を事業計画として挙げた。

このうち①の学士課程教育の実質化に向けた検討については、厳格な成績評価との関連からGPA制度について意見交換を行った。また、文部科学省が推進しようとしているナンバリング制度についても紹介し、導入に向けた準備を開始した。

②の教育方法・教材開発費制度については、更なる公平性をはかるため、応募者の意見を聞くためのヒアリング制度を設けることとした。

③の英語版FDハンドブックについては、編集を終え、外国人教員を主な対象として学内に配布した。日本語を母語としない教員にも、本学のFD活動を理解してもらうための一助となればと考えている。

④の「大学入学準備講座」の企画は、2012年度も盛況で多くの高校生が参加して



くれた。毎年の活動として定着してきたように思う。

⑥のFD講演会・ワークショップの開催については、7月に文部科学省との共催で「大学教育改革地域フォーラム2012 in 同志社大学～グローバル社会における学生の主体的な学びについて考える～」を開催した。この企画は、大学教育の質の転換をはかるために必要な課題や具体的な取組について、学生、教職員、社会人等の立場から幅広く議論することを目標として全国各地で開催され、京都では本学が開催校となった。当日は、多くの教職員および学生が参加し、ラーニング・コモンズにおける学生の主体的な学びの可能性等、新しい視点からの報告があり、これから大学が進もうとしている道筋が示されたように思われる。また、3月には「学びの空間が大学を変える～空間から活動・共同体へ～」というテーマで、ラーニング・コモンズのプレゼンテーションコートを使って講演会を行った。

・教育効果向上部会

第1回：5月30日開催

(審議事項) 2012年度事業計画について

第2回：7月27日開催

学習支援・教育開発センター所長講演「本学の教育改革」

第3回：12月7日開催

(報告事項) 2011年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」集計・分析結果について

(審議事項) 2012年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」実施要領について

(懇談事項) 学部・センターで注力している取組について

2012年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」調査項目について

第4回：2月20日開催

(報告事項) 2011年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」集計・分析結果について

(懇談事項) 「キャンパスライフに関するアンケート調査」から読み取れる課題について

<活動報告>

2012年度の教育効果向上部会では、①「キャンパスライフに関するアンケート調査」の実施及び調査結果の分析、②「キャンパスライフに関するアンケート調査」調査結果の利用促進、③「キャンパスライフに関するアンケート調査」から読み取れる課題の抽出についての3点を事業計画として挙げた。

「キャンパスライフに関するアンケート調査」の実施及び調査結果の分析については、昨年度と同様に、専門調査員を中心に行い、「2011年度『キャンパスライフに関するアンケート調査』調査結果報告書」の作成が完了した。特に2012年度は、「大学に対する愛着（愛校心）の規定要因に関する基礎的分析」をテーマとした分析も行い、同志社大学の目指している良心教育、キリスト教主義の成果が垣間見られる結果となった。また、2008年度より一部の学部で実施してきたID記入によるパネル調査について、2011年度から1年次生の全学部で実施し、2013年度には、3年次生も全学部でID記入調査を実施することができるようになっている。

上記のアンケート調査の利用促進を行うために、個別学部を訪問し、調査結果のフィードバックを行った。2012年度は、グローバル・コミュニケーション学部、スポーツ健康科学部、神学部、文化情報学部で実施した。各学部の特徴が見られるアンケート調査を取り纏めて紹介することにより、学内での本調査自体の認知度は徐々に高まってきている。

「キャンパスライフに関するアンケート調査」は、PDCAサイクルを繰り返すことにより継続的に教育効果を上げる仕組の一環として行っている。2012年度は、このPDCAサイクルを意識した検討も行った。本学および各学部が注力する取組について議論し、大学が目指す基礎学力の向上、主体的学習の獲得、国際化の推進を中心に、各学部が特色あるプログラムの作成をプランしていることが纏められた。また、各学部の取組が成果を上げているのかについて、アンケート結果を利用して議論を行った。

• 大学院教育検討部会

第1回：5月23日開催

（審議事項）2012年度事業計画について

第2回：7月27日開催

（懇談事項）博士前期課程における教育上の課題について

第3回：11月26日開催



(審議事項) 2013年度TA研修会の実施について

第4回：2月22日開催

(報告事項) 科目担当者による授業講評について

学習支援・教育開発センター講演会の開催について

博士論文の公表(中央教育審議会大学分科会資料)について

文部科学省科学技術政策研究所「博士人材データベース」について

博士論文審査ポイントの検討状況について

<活動報告>

2012年度の大学院教育検討部会では、①TA研修制度の検討、②大学院教育充実のための情報提供と意見交換、③博士課程教育における課題の検討、④博士前期課程における教育上の課題の洗い出しの4点を事業計画として挙げた。

①TA研修制度の検討については、前年度の実績を踏まえ2013年度TA研修会実施要領を決定した。2012年度は新任のTA及び希望者に限定し、日程も履修登録期間中に早めて実施した。2012年度のアンケート結果を踏まえ、2013年度は試行的にTA経験者の体験談の時間を設ける予定である。

②大学院教育充実のための情報提供と意見交換については、文部科学省が6月に発表した「大学改革実行プラン」や、中央教育審議会大学分科会大学院部会の審議動向等の報告を通じて、大学教育改革をめぐる論点について情報提供を行い、各研究科において議論する際の材料を提供した。

③博士課程教育における課題の検討については、博士論文審査ポイントの明示に関する検討状況を部会委員より聴取し、過半数の研究科での策定完了を確認した。今後さらに、全研究科での策定に向けて検討を進めるとともに、「履修の手引き」等において明示することを要請した。また、博士論文公表の方式変更についても関連して情報提供を行った。

④博士前期課程における教育上の課題の洗い出しについては、博士前期課程の学生に対するキャリア形成支援方策や社会人教育への対応が検討課題として提起され、特に、キャリア形成支援について、他大学で実施されている大学院共通科目の取組に関する情報提供や各研究科でのキャリア形成支援の事例等の意見交換を行った。2013年度に向けて学生の意識調査や学内関連部署との連携方法等を含め、大学院生へのキャリア形成支援についてさらに取組んでいくこととなった。

研修会の開催

・2012年度新任教員研修会

日 時：4月2日（月）13：00～16：20

場 所：寧静館5階会議室

プログラム：

開会挨拶 龍城 正明 副学長

本学におけるガバナンス、意思決定の仕組み（講師）土田 道夫 副学長

本学における国際化の取組（講師）龍城 正明 国際連携推進機構長

本学における教育活動（講師）土田 道夫 教育支援機構長

本学における研究活動（講師）松岡 敬 研究開発推進機構長

本学における学生支援体制（講師）西村 卓 学生支援機構長

本学における入学試験業務（講師）宿久 洋 入学センター所長

本学における教育・研究倫理（講師）佐伯 彰洋 倫理審査室長

（司会 勝山 貴之 教育開発センター所長）

・2012年度TA研修会

日 時：

第1回 4月4日（水）12：30～13：00

（主会場）今出川キャンパス 明德館1番教室

（サブ会場）京田辺キャンパス 知真館1号館232番教室

第2回 4月5日（木）18：30～19：00

（主会場）今出川キャンパス 明德館1番教室

（サブ会場）京田辺キャンパス 知真館1号館232番教室

第3回 4月6日（金）12：30～13：00

（主会場）京田辺キャンパス 知真館1号館232番教室

（サブ会場）今出川キャンパス 明德館1番教室

内 容：

- ・TA制度の目的・役割、業務範囲、TAの心得、キャンパス・ハラスメントの防止等について
- ・TAの就業手続きについて

講 師：

勝山 貴之 教育開発センター所長／文学部教授



武蔵 勝宏 教育開発センター大学院教育検討部会長／政策学部教授
 廣安 知之 教育開発センター教育効果向上部会長／生命医科学部教授

講演会の開催

・大学教育改革地域フォーラム 2012 in 同志社大学

～グローバル社会における学生の主体的な学びについて考える～

日 時：7月22日（日）13：30～16：40

場 所：今出川キャンパス 明德館21番教室

テーマ：・学修時間の増加・確保は、実際に社会で役立つ学びにつながるのか
 ・大学の学修の内容と時間を、教員・学生・経済界はどう考えているのか
 ・学修時間を増加・確保し大学での学びを深めるために何をすべきか

参加者：(パネリスト)

常盤 豊氏 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）

圓月 勝博 文学部長

吉田 進氏 株式会社エフエム京都 代表取締役社長

山本 恵美子氏 株式会社富士通システムズ・ウエスト

本学学生・留学生

(総合司会)

勝山 貴之 学習支援・教育開発センター所長

(進行・モデレーター)

山田 礼子 社会学部教授

主 催：同志社大学・文部科学省共催

後 援：大学コンソーシアム京都

概 要：大学教育改革地域フォーラムは、中央教育審議会大学分科会大学教育部会の審議まとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」を受け、大学教育の質の転換を図るために必要な課題や具体的な取組等について、学生、教職員、社会人等の立場から幅広く議論するために全国各地の大学で開催されたものである。京都では、本学と文部科学省が共催し、大学コンソーシアム京都の後援を受けて、学内外からおよそ200人を集めて開催し、大学における学びの実態、日本と外国における学びの違い等について意見発表および積極的な討論が行われた。特

に、研究力の向上と教育力との関連性、日本の大学の良さであるゼミ教育、ラーニング・コモンズにおける学生の主体的な学びの可能性等新しい視点からの発言があり、これらの意見は、大学分科会大学教育部会において議論の参考にされた。当日の様子は、「You Tube」に設置されている文部科学省公式動画チャンネルでも報じられている。

• 学習支援・教育開発センター講演会

日 時：3月18日（月）14：00～17：00

（17：00～17：30 ラーニング・コモンズ見学会）

場 所：今出川キャンパス 良心館ラーニング・コモンズ プレゼンテーションコート

テーマ：学びの空間が大学を変える～空間から活動・共同体へ～

・学びの空間が大学を変える

（講 師）山内 祐平 氏 東京大学大学院 情報学環 准教授

・本学ラーニング・コモンズの紹介

（講 師）清水 亮 氏 学習支援・教育開発センター 准教授

（2013年4月着任）

・ディスカッション・質疑応答

（指定討論者）米澤 誠 氏 東北大学附属図書館 総務課長

概 要：講演会「学びの空間が大学を変える～空間から活動・共同体へ～」では、教育工学・学習科学の第一人者である山内祐平氏より、学習者の“思考の道具”としての学習空間・学習環境のデザインや、学習空間を生かす支援のあり方、新しい学びの形であるMOOC（Massive Open Online Course）の利用等について、具体例を交えてお話しいただいた。また、清水亮氏からは、本学ラーニング・コモンズのコンセプトや期待される役割等について紹介があった。ディスカッションでは、ラーニング・コモンズを日本に初めて紹介された米澤誠氏と学習支援・教育開発センターの勝山貴之所長も加わり、学生の主体的な学びを促す空間や支援の方法について、活発な議論が行われた。講演会終了後には、ラーニング・コモンズ見学会を企画し、参加者に学びの空間を実際に体感してもらった。

当日は、学内外より100名を超える教職員・学生の参加があり、ラーニング・コモンズを含めた学習空間・学習環境や、学生の学びを促す学習支援のあり方について考える良い機会となった。



「学生による授業評価アンケート」の実施

・春学期

実施期間：WEB利用…7月2日～7月27日

調査票利用…7月14日～7月20日

・秋学期

実施期間：WEB利用…1月7日～1月27日

調査票利用…1月15日～1月21日

2012年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」の実施

調査対象：学部1年次生及び3年次生

実施期間：秋学期成績通知書配付時（3月25日）

大学入学準備講座の開講

・9月15日：恵道館106番教室（京田辺キャンパス）

「新エネルギー発電と蓄電技術」（理工学部 長岡 直人 教授）

「末梢神経の再生医療による癌の新しい手術」（生命医科学部 萩原 明郎 教授）

・10月6日：夢告館101番教室（京田辺キャンパス）

「若者ことばから見る現代日本文化の特質」（文化情報学部 山内 信幸 教授）

「体力、技術の向上のためのトレーニングの原理・原則」

（スポーツ健康科学部 田阪 登紀夫 教授）

・10月13日：明德館1番教室（今出川キャンパス）

「21世紀における国際化とグローバル化」

（グローバル地域文化学部：2013年4月開設 有満 保江 教授）

「言語とアイデンティティ」

（グローバル・コミュニケーション学部 窪田 光男 准教授）

・10月20日：明德館1番教室（今出川キャンパス）

「自分だけはちゃんとわかっている！？—心理学から見た偏見のしくみ」

（心理学部 神山 貴弥 教授）

「古典日本語を現代につなぐ」（文学部 石井 久雄 教授）

- 10月27日：明德館1番教室（今出川キャンパス）
「森進一氏「おふくろさん」歌詞改変と著作権法」（法学部 井関 涼子 教授）
「政権交代と日本の農政—日本の農業に未来はあるか」（政策学部 山谷 清志 教授）
- 11月10日：明德館1番教室（今出川キャンパス）
「生産なき交易循環型社会の宗教「イスラーム」と日本社会」
(神学部 四戸 潤弥 教授)
「日本のセーフティネットのかたち」（社会学部 埋橋 孝文 教授）
- 11月24日：明德館1番教室（今出川キャンパス）
「格差社会をみる力」（経済学部 角井 正幸 准教授）
「若者の起業論」（商学部 熊野 正樹 講師）

発行物

- CLF report（学習支援・教育開発センターレポート）
第17号：10月26日発行
第18号：3月29日発行
- 「キャンパスライフに関するアンケート調査」
2011年度調査結果中間報告書：12月発行
2011年度調査結果報告書：3月発行
- 2012年度「大学入学準備講座」講義録：2月15日発行
- Doshisha University Faculty Development Handbook
（同志社大学FDハンドブック英語版）：3月発行
- 同志社大学ラーニング・コモンズ利用ガイド：3月発行